

長野県出身の女性映画監督作品を観る

上原 昇 (2組)

昔と比べ映画界に女性の監督が増えているのは時代の流れ(趨勢)です。

上田高校同窓でも鶴岡慧子さん(105期)が活躍していることは映画ファンならご存じでしょう。

最近、二人の長野県出身の女性プロデューサーと監督の作品を観る機会がありました。

まず一人はプロデューサー兼監督の合津直枝さん(1953年生、大田市出身、松本深志高校から早稲田大学第一文学部卒。テレビマンユニオンに参加、TVドラマのベテランプロデューサー)です。合津さんが初めて映画の企画プロデュースした作品は1995年に公開された「幻の光」(宮本輝原作、是枝裕和監督)です。能登を舞台にして、地味な内容ですが力強い映像が印象的な作品で観た方も多いかと思います。この作品は今年の8月から輪島復興支援のための再上映会を全国展開しているところなので、筆者もテアトル新宿という映画館へ観に出かけました。(https://maborosi.online/現在、上田映劇でも上映中とのこと)

是枝監督もテレビマンユニオン出身で、今では世界的に有名になりましたが、29年前に公開された本作が映画監督初(デビュー)作品です。

再上映にあたって合津さんは「監督も主演女優(編集注:江角マキコ)も新人、もとよりチームを牽引するプロデューサーである私も映画界ではズブの素人であった。出資も配給も全く目途がたらず、



合津直枝さん

この企画はあきらめるべきかもしれないと、断念の旅をと輪島へ向かった。「応援しますよ」と観光協会のHさんは軽々と言った。その瞬間から「幻の光」はまぼろしではなく現実に動き出した。

「幻の光」は輪島の方々の応援がなければ完成しなかった。そして今年の正月のニュースに声を失った。私たちに出来ることはないか、と考え抜いた結果が今回の再上映になった」と語っています。

同期諸兄も輪島の復興を願って本作をご覧になるのも良いかと思います。

次に紹介するのは山中瑤子さん(1997年生、長野市出身、長野西高校から日大芸術学部に進学するも中退)。2017年、「あみこ」がピアフィルムフェスティバル(PFF)で観客賞を受賞しています。

今年の9月6日、新作「ナミビアの砂漠」(https://happinet-phantom.com/namibia-movie/)が公開されたので、早速観てきました。



山中瑶子さん

本作はカンヌ国際映画祭国際映画批評家連盟賞を受賞して話題となりました。

私は知りませんでした。今、時代のアイコンと称されているらしい女優、河合優美が主演で複雑な（正体不明な）性格を伸びやかな身体を使って演技・表現しています。（彼女は昔の山口百恵にちょっと似ているように思いました）

ナミビアはアフリカ南西部の新しい独立国ですが、映画の舞台とは関係ありません。

最近発行された新聞や雑誌に山中監督や河合さんが頻繁に登場しているのは、本作が時代を映している話題作だからでしょう。こちらも鑑賞をお薦めします。

じつはもう一人、長野市出身の女性映画監督がいることを最近知りました。

塚田万理奈さん（1991年生、長野市出身、日大芸術学部卒）です。塚田さんは「還るばしょ」（2014年）という作品で PFF 入選しています。



塚田万理奈さん

そして、同作は第12回うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテストでも審査員賞を受賞。

2016年には「空（から）の味」で田辺・弁慶映画祭グランプリを獲得。

9月21日からは渋谷のユーロスペースで最新作「満月（みつぎ）、世界」の公開が始まります。

この作品は故郷の長野市を舞台に、地元の少女たちを主役にしたオムニバス映画とのこと。

<https://eiga.com/news/20240522/11/>

女性映画監督、山中さん、塚田さんの今後のますますの活躍を期待したいと思います。

（2024年9月7日記）

以上